

読者像に応じた技術書選びの指針

武蔵大学経済学部経営学科 4 年

荻野ゼミ

森 駿

本研究の目的は、IT 技術者が自身のスキルや目的に適した技術書を、購入前に得られる情報のみから客観的かつ効率的に選定できる指針を構築することである。現在、技術書の選定にはレビューやブログなどの評価情報が多く参照されているが、技術書は専門性が高く読者層が限定されるため、評価件数が少ない場合や、評価者のスキルレベルの違いによって受け取り方が大きく異なることがある。その結果、既存の評価は参考にはなるものの、読者自身の目的や技能水準に適合する書籍を選べない場合も少なくない。さらに、知名度の高い書籍に関心が集中し、より適した書籍を見落とす可能性もある。

本研究ではこのような課題を踏まえ、レビューの量に依存せず、書籍購入前に確認可能な情報のみから、読者自身への適応度を簡便に判断できる技術書選定指針の構築を目指す。

本研究では、Java 関連書籍 49 冊を対象として、「初心者適応度（難易度）」と「業務有用性（対象志向）」の 2 軸を設定し、二値分類モデルを構築した。目的変数のラベルは、プログラミング経験者を含む協力者 3 名により付与した。説明変数には、タイトルや価格などの外形的特徴に加え、章タイトル平均長、例題の有無といった目次構造、著者情報、序文情報など、購入前に参照可能な情報のみを用いた。また、技術書選定時に序文を読んだ際に直感的に感じられる読みやすさや難しさを客観的に近似するため、李在鎬による文章難易度研究を参考にリーダビリティ・スコアを採用し、LASSO 回帰および Random Forest による分析を行った。

分析の結果、「初心者適応度」には対象読者が「初心者向け」と明示されていることが最も強い影響を持ち、加えて価格の低さ、例題の存在、序文のリーダビリティ・スコアの高さが正の影響を与えることが確認された。一方、「業務有用性」には章タイトル平均長、ページ数、出版経過年数といった構造的特徴が影響し、体系的かつ網羅的な構成を備えた書籍ほど業務適性が高い傾向が示された。また、例題の存在は負の影響を示し、業務書では即時参照性や実務での応用性が重視されることが示唆された。

本モデルはテストデータにおいて、初心者適応度で一致率 100%、業務有用性で 80～90%の予測精度を示し、購入前に得られる客観的情報のみを用いた技術書選定支援の可能性を示した。